

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900218		
法人名	社会福祉法人 信愛会		
事業所名	グループホーム たちばな 1号館		
所在地	宮崎県宮崎市高岡町内山2407番地3		
自己評価作成日	令和2年12月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 宮崎県介護福祉士会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2-22 宮崎県福祉人材センター人材研修館内		
訪問調査日	令和3年4月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同一敷地内に併設病院があり、医療関係との連携体制が構築されているため、本人、家族より安心の声を頂いている。また、特養、老健、ケアハウス等もあり、行事を合同で行うことで連携が深まり、災害時の対応も協力して行える。 ・豊かな自然環境の中、畑にて季節毎の野菜作りを3ユニット合同で行い調理している。 ・家族との密な関係を築くために、事ある毎に報告、相談を行っている。また、行事を企画し、家族と共に利用者の視点に立って、寄り添ったケアを心掛けている。 ・地域での買物や地域のイベントへ参加し、外部との繋がりを図ることでオープンなグループホームを目指すと共に利用者が地域の一員となるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>系列法人に医療機関、各福祉施設があり、複合施設として地域の中で医療・福祉の拠点となっている。ホームは、認知症ケアの最前線という意識を高く持ち、「今、できること」を大切にした支援に努めている。ペランダといったの花づくりや系列施設のシニアボランティアとして活動を行っている入居者もいる。また、野菜づくり用の畑もあり、収穫された野菜で調理をするなど、これまでの生活感覚を大切にしながら、可能な範囲でドライブや散歩を行い、入居者の気分転換を図るようにしている。面会制限が続く中、リモート面会にも対応ができるようにしている。職員は、入居者と家族の思いに寄り添い、連携を取りながら支援に努めている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所全体の理念は定例会で唱和し、ユニット理念は廊下や食堂の掲示にて認識し、実践に繋がっている。	事業所理念をもとに、各ユニット毎に話し合い、理念を作成している。入居者にも見える場所に大きな文字で書き、掲示している。実践の中で、意識的に理念に立ち返る機会を持てるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来る限り地域の催しに参加したり、散歩等で地域の人と交流するように心掛けていたが、コロナ禍で自粛している。	コロナ禍でこれまでのような地域との交流は、難しくなっているが、可能な範囲でドライブや散歩など外にできる機会を作るようにしている。系列施設でシニアボランティアとして活動をされている入居者もおられる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度までは運動会、夏祭り、敬老会、オレンジカフェへ参加してもらっていたが、今年度はコロナの影響でほぼ実施できなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議時、事業所の取り組み、事故・ヒヤリを報告し、委員の意見を取り入れ、サービス向上に活かしている。	感染症対策により、文書での開催が主となったが、委員からは多くの意見が頂けた。事故報告や施設設備の意見があり、議事録としてまとめ各委員に送付している。また、全職員にも回覧し、サービス向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者、ケアマネージャーが市町村担当者へ実情を相談し、サービス向上に活かしている。	事故報告書の記入方法など、疑問点があるときには、直接、市の担当者に電話で尋ねるようにしている。丁寧に対応して頂いており、良い関係性ができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月1回身体拘束委員会実施。職員一人ひとりが理解して、身体拘束をしないケアを行っている。	各ユニットでの検討事項を持ち寄り、身体拘束委員会を開催している。玄関には施錠せず、チャイムと声掛けで出入りの確認を行っている。落ち着いた様子が見られる入居者の方とは一緒に散歩をするなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、理解を深めることで、職員同士で声掛けを行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者に後見人制度活用している方がいる。又、研修にて制度の理解をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族へ入居前に契約書を郵送し、確認してもらった上で、入所時、書面で契約内容をしっかりと説明している。改定時は家族の不安や疑問点を確認し、十分な説明で、本人や家族の同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンス時や行事後は、必ず家族の意見要望を確認し、運営に反映させた際は、運営推進会議で状況を報告している。	家族の意見や要望の聞き取りとしては、無記名でのアンケート(年一回)や介護計画作成時などに電話での聞き取りを実施している。また、運営推進会議の委員としての参加で、意見を頂き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表や管理者は、朝礼や定例会・人事考課面談で職員の意見を聞き、業務改善に取り組んでいる。	管理者は全職員との人事考課面談(年二回)を行っている。業務に関して出された意見には、出来るだけ早めに対応し、法人との協議が必要な事案に対しては、検討を行い、結果を伝えるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて、職員個々の状況把握し、職員の意見に添って職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせて、必要な研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の参加にて、他事業所職員と交流で知り得た情報を下にサービス向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する時、利用者の要望に耳を傾けながら、本人らしく生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に家族の要望等を確認し、出来る限りそれに沿ったサービスを提供するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを提供する前に、家族の意見をしっかりと聞き、利用者にとって必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る家事(洗濯物干し・たたみ、テーブルやお盆拭き)等は声掛けにて実施してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ行事参加や敷地外の病院受診の協力要請をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との面会支援や馴染みの場所へのドライブや買物、墓参り等を実施している。	感染症対応を行いながら、可能な範囲でのドライブや外出を行っている。新しくなった宮崎駅や県庁、自宅や母校など入居者の希望に添う外出にしている。また、リモート面会も可能となるよう機器の設定を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、食事やレク等の席順に配慮している。又会話の少ない利用者には職員が間に入り、会話の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、その利用者に合った施設を紹介したり、相談があれば出来る限り支援できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を確認し、困難な場合は職員で話し合い、出来る限り一人ひとりが過ごしやすい環境を整えるように支援している。	入居者のこれまでの生活習慣に添って、興味のあることを取り入れた生活の構築が出来るよう、家族と相談しながら支援を行っている。職員は、入居者の言動に関心を払い、記録することで実践に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に生活歴等を確認し、事前に把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を把握し、本人に合った作業等を提供できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の気持ちを聞き、家族とも相談しながら、その人に合ったサービスが提供できるように計画作成している。	本人や家族の意向を担当職員やリーダー、介護支援専門員が聞き取り、必要時にはかかりつけ医など医療的意見をもとにして介護計画を作成している。定期的なモニタリングを行い、家族にも報告を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子はケースや日誌に記入し、特に重要な事項は申し送りノートやホワイトボード等を活用し、職員間で情報共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その状況に応じて家族に相談しながら、適切なサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	状況を見ながら地域の交流会に参加している。その他、歯医者への訪問、避難訓練時の消防士立ち合いを行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が要望する医療機関を受診し、適切な医療が受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の確認を行ない、緊急時対応のため、系列の病院(内科)受診を行って頂くように依頼している。それ以外は、これまでのかかりつけ医の受診を支援し、受診連絡表にて情報伝達を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者の変化・気づきがあった場合は、直ぐに併設の病院看護師へ伝えて相談し、適切な受診ができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを渡し、入院中は病院関係者との情報交換にて早期退院に努めている。また、変化の把握に努め、退院後すぐに対応できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期について書面で説明にて理解して頂き、状態が変化した際に家族と相談しながら、方向性を決められるように努めている。	重度化や終末期のあり方としては、入居時や状態変化があった時に本人・家族との話し合いを行なっている。基本的には、ホームでの看取りは行わず、必要な医療や介護を受けることが出来るよう系列法人との連携を図り、納得のいく支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の参加や定例会時に応急処置の訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月避難訓練を実施。年2回法人合同・年1回辰元グループと地域住民と合同防災訓練を実施している。また職員間の連絡が速やかに実施出来るように緊急連絡網訓練を行っている。	地域防災の拠点となる法人であるため、事業所内での定期的な避難訓練や地域、法人合同での訓練が計画的に行われている。備蓄品も法人全体と事業所独自にも用意をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者一人ひとりの事を考え、人格を尊重した対応を行っている。	個々に応じた対応を行なうことで、入居者の安定が図られているが、言葉遣いなど慣れからくる見落としも考えられる。また、設備的にも共用のトイレであるため、音や臭気などプライバシーへの配慮がさらに求められる。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねないための言葉かけや対応に関して、職員間で常に見直しを行い、よりよい支援に繋げていくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるような声掛けを行い、自己決定ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者が自分のペースで過ごせるように、本人の意に沿った支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が希望する髪型や服装を支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に献立から調理してもらって月1回の昼食作り時はお替りされている。また、利用者が収穫した野菜を提供することで食事を楽しむ様子がある。	セントラルキッチンの方式をとり、ご飯とみそ汁はホームで作り、おかずは温めて提供している。変化を持たせるため、昼食作り(月1回)、おやつ作り(月2回)を行い、入居者も積極的に手伝い、楽しみの時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立したものを配食し、利用者一人ひとりに合った食事形態や量で提供している。水分量の確保のため、ポカリスウェットや水を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりに合った口腔ケアを行うように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの状態を見て、定時の声掛けをし、習慣化出来るように支援している。	昼夜ともトイレでの排泄を基本とし、排泄チェック表をもとに個別の声掛けや誘導を行っている。適切な誘導により、自立に向けた支援に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と相談しながら、適切な水分補給と適度な運動ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の希望があれば、出来る限り入浴できるよう支援している。	入浴を楽しんで頂けるよう保湿効果のある入浴剤を使用し、良い香りで入居者にも喜ばれている。しょうぶ湯やゆず湯も季節に応じて行っている。仲の良いお二人が温泉気分と一緒に入られることもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的なシーツ交換を行い、夜間の快眠に繋がるように湿度、温度調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的等を確認し、服薬時は職員間で声掛けし、介助している。また、処方薬の変更後は、変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人に合った軽作業を行ってもらったり、レクで風船バレー、ドライブ等で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望にて散歩やドライブ等を実施。家族の協力を得て外食に連れて行ってもらっている。	今年度は、これまでのように頻回には行えなかったが、状況をみながらドライブや希望に応じた外出を行ってきた。日常的な散歩や自動販売機での飲み物の購入、ゴミ捨ての同行など可能な限り外に出る機会を持ち、気分転換を図るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が欲しい物は家族の了解の下、購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から施設へ電話があった際は、できるだけ利用者と替わり会話を楽しんでもらっている。2名の利用者家族は定期的に手紙が届いている。また年賀状を家族へ書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある絵や作品と一緒に作成し、食堂やホールに飾る事で、四季を感じてもらうように心掛けている。	特徴的な六角形の建物であり、各居室の入り口のドアに色違いのプレートや名札が貼られている。ホールで季節に応じた飾り物を作ったり、ベランダで色とりどりの花を育てたりしながら、それぞれの生活を大切に、居心地の良い環境づくりを行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では気の合った利用者同士で座れるように工夫し、ホールソファでは誰とでも過ごせるような配置にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の使っていたものを出来る限り持参してもらい、居心地が良く過ごせるよう努めている。	本人の居心地の良さ、なじみのある雰囲気を大切に部屋づくりを行っている。寝具や家具も使い慣れた物や好みの物を持ち込まれているため、それぞれの部屋に個性があり、温かさが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には名札をかけて自分の部屋が分かるようにし、通路に出来る限り物を置かないことで、自由に動ける空間作りに努めている。		